

小さな自治会の藤ヶ谷町の高台に藤ヶ谷公園があります。

公園はコケ混じりの雑草に被われていて、雑草後は一面、芝生広場のようになります。柔らかい地面なのでお年寄りや幼児にも安全です。里山に囲まれた静かな環境です。大人の野球などは無理ですが、ランニング、キャッチボールやサッカーのパス練習など



が出来るほどの広さがある、立派な運動公園です。大きな桜の木があり、花見をする家族連れがピクニックに訪れることもあります。



下関のくじら情報

『関鯨丸』就航

初出漁式

林 眞一郎

5月7日 岬之町埠頭24号岸壁に停泊中の船団型捕鯨母船『関鯨丸』を視察した。同船は『日新丸』後継船として市内造船所で建造され、これを以て、下関市の商業捕鯨における 基地化・母港化 が達成されたことになる。この後、21日には今年度の捕鯨初出漁にむかうことになる。

外観はRO-RO船に似ており、クジラの解体を行う解剖甲板は衛生環境を考慮して、上構内の屋内に設置されている。次世代燃料の導入を考慮し、電気推進を採用し、発電機は4基で、個別を制御することで二酸化炭素排出の軽減を図っている。航続距離は1万3,000kmで、南極海までの航行能力を有し、将来の南極海での捕鯨を可能としている。乗組員は100名で、このうち50名は鯨類の解体や加工などに従事する製造員である。乗組員の居住室は、プライベートに配慮

し全員個室、テレビやソファが配置され居住性が向上している。

5月21日午前10時40分多くの関係者に見送られ、関鯨丸は大海原へ出港して行きました。これに先立って行われた初出漁式で共同船舶 所英樹社長は、『1987年より32年間船団型捕鯨母船として調査捕鯨に従事し、商業捕鯨再開後今日まで貢献した 日新丸 の後継船として就航する関鯨丸の初出漁に際し、新たに捕獲対象にナガスクジラが加わり大きな目標が出来た。今秋下関で最初にナガスの生肉を美味しくいただけるよう空輸で対応したい。75億円の投資を回収し利益をあげて行くべく、全社一丸となって取り組みたい』等発信された。下関市長より乗組員代表者に花束贈呈、名池保育園児もダンスと歌でお祝いしました。帰港が楽しみです。



維新物語 ②-1

のうのいちろう
南野一郎 ~歴史の陰の功労者~

郷土史研究家 林 吾郎

今から160年程前、日本は今の近代化に繋がる明治時代という新しい時代を迎えました。

明治維新を迎えるまでは江戸時代で、まちははちゃんまげを結った侍が闊歩していた時代です。ここ下関も北前船など大小の船が寄港して、まちは大いに活況に満ちていました。

風雲児とも言われた高杉晋作がつくった奇兵隊などが押し寄せる外国船に攻撃を加えた、いわゆる攘夷戦もこの時代で、私たちが住む目の前の関門海峡で繰り広げられた戦いです。

その奇兵隊に加わり、幕末期から明治初期に活躍した「南野一郎」という人物についてどのような人物だったかを駆け足で今回は記していきます。文政11年(1828年)に南野は萩に生まれま

した。奇兵隊に入隊した時期は定かではありませんが、文久年間(1861年~1864年)には関わっていることはわかっています。ちなみに高杉晋作が奇兵隊を結成したのは文久3年(1863年)6月8日のことです。最初、奇兵隊は竹崎町の白石正一郎邸に本拠を構えますが、のちに阿弥陀寺(今の赤間神宮)に本拠地を移して、南野が本営に入ったのは同年8月15日。翌年には奇兵隊付属狙撃隊長に命じられています。元治元年(1864年)に起きた、馬関戦争でも奮戦した記録が残る。その後に七番銃隊隊長に転じた南野は慶応元年(1865年)に土雇(準士)に任じられていますが、慶応2年に器械方に転じたあとは、裏方にまわっています。

次号へ